

YHAL F08 032

第四十回

理化学研究所 學術講演會

講演目次

(聴講御随意)

日時

昭和十六年十二月 自 十二日 (三日間)

會場

第一會場：理化学研究所第二號館四階講堂

第二會場：同所第二十二號館

聴講者諸君へ希望

各講演後御質疑御意見等の御披瀝を歓迎します

開會中は第二號館三階に講演参考品並に當所製作品の陳列があります

財團法人 理化学研究所

東京市本郷區駒込上富士前町 (市内電車停留所・理化学研究所前)

電話 大塚 (8) 3171 ~ 3179, 7405 ~ 7407



880 80 3 JARY

注 意

開會中 第二號館三階に 講演 参考品 及 當所 製作品の 陳列があります

陳列豫定の 科學機械部 製品

- | | |
|--------------|----------------|
| 水晶分光寫真器 (A型) | 一型測定機 |
| 水晶分光寫真器 (C型) | プリズム スペクトロスコープ |
| XY 測長機 大・小 | 二十耗スリット |
| 常圧石英水銀燈 | 圓盤度盛機 |
| リンデマン電位計 | 携帶用分光計 |
| 鋭感電流計 | ゲージブロック |
| 除振架臺 | 光波干渉計 |
| ランプアンドスケール | 100 m/m 目盛機 |
| 纖維電位計 | アナリスコープ |
| 測微指示計 | 光學測微計 |
| 球面計 | 測微顯微鏡 |
| 超不變鋼標準尺度 | アングルデッカー |
| 油擴散ポンプ (C型) | |

第一日 十二月十日 (水曜日)

[○印は連名の場合の講演者]

第一會場 (午前の部) 午前九時開演

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 開會の辭 | 所長 大河内 正 敏 |
| 1. 簡單なる加水凝固材に就いて (8分) | 飯 盛 里 安 |
| 2. 朝鮮産風信子鍍と其利用 (豫報) (12分) | { ○飯 盛 里 安
飯 盛 武 晋夫 |
| 3. 朝鮮産礫狀タンタル鍍物の二三に就きて (16分) | { ○飯 盛 武 晋夫
岩 瀬 榮 一 |
| 4. 螢石晶出に關する一知見 (10分) | 岩 瀬 榮 一 |
| 5. 新鍍物上八洞石に就いて (12分) | { ○岩 瀬 榮 一
齋 藤 信 房 |
| 6. Cr, V, U と Ga との分離並に定量法について (12分) | 阿 藤 質 |
| 休 憩 (10分) | |
| 7. 鍍明礬水溶液の加水分解速度 (12分) | 岡 部 建 藏 |
| 8. 本邦鍍泉の礬酸含有量 (12分) | 多 賀 谷 健 夫 |
| 9. 千葉縣茂原地方鍍泉の地球化學的研究 (12分) | 黒 田 和 夫 |
| 10. 鬼首辨天新吹上間歇泉について (第二報) (12分) | { ○有 野 癸 巳 雄 吉
野 邑 雄 |
| 11. 硫化鐵と亞硫酸ガスとの反應による硫黃の生成 (10分) | { ○鈴 木 弘 之 浩
秋 澤 一 |
| 12. ニッケルカルボニルの熱分解に就いて (第三報) (8分) | 外 崎 巧 一 |
| 13. 鹽素水の pH とその加水分解 (硝子電極 第十四報) (12分) | { ○石 川 總 雄 浩
萩 澤 |

第一會場 (午後の部) 午後一時開始

- | | |
|--|----------------------------------|
| 14. 鯨油添加飼料に依る白鼠の Seborrhea に就いて (續報) (15分) | 染 川 英 一 |
| 15. Thiochrom の一性質について (8分) | { ○源 田 秀 三 郎 等
松 岡 喜 一
岩 本 |
| 16. Pyrimidine 誘導體の合成 (第一報) (16分) | 梅 野 豊 明 |
| 17. 光度計による酵母量の測定に就いて (8分) | 大 河 内 信 定 |
| 18. パントテン酸ナトリウム鹽水溶液の安定度試験 (12分) | { ○舟 橋 喜 三 郎 代
道 喜 美 |
| 19. パントテン酸の一合成法 (12分) | { ○舟 橋 喜 三 郎 代
道 喜 美 |
| 20. Alloxazin 核の生成反應に就いて (16分) | { ○東 恒 人 美
西 田 壽 |

21. ヴィタミン D の理化学的測定法 (第五報) (16分) { ○中 宮 次 郎
小 泉 清 人
22. 茶葉の利用研究 (第一報) (16分) { ○山 本 亮
大 夫 久
小 熊 文 喜 久
熊 谷 美 枝 子
- 休 憩 (10分)
23. ヒスタミンの毒作用とヴィタミン B 複合體との關係に就いて (8分) { 井 上 兼 雄
赤 穂 兼 た み
24. 蛋白質の代謝とヴィタミン B₂ 複合體 (第二報) (12分) { 井 上 兼 雄
大 森 兼 静
25. 飼料中の蛋白質量とヴィタミン B₆ 缺乏症との關係に就いて (8分) { 櫻 井 芳 人
青 柳 幸 幸
26. 酸性白土その他の吸着剤の吸着能試験 (第一報) (12分) 櫻 井 芳 人
27. Vitamin L の研究 (第十五報) (8分) { ○中 原 和 郎
大 鶴 上 文 三 郎
Vitamin L₂ と酵母 Nucleic Acid との關係
28. Vitamin L の研究 (第十六報) (8分) { ○中 原 和 郎
大 鶴 上 文 三 郎
Vitamin L₂ と Adenyl-thiomethylpentose との關係
29. Vitamin L の研究 (第十七報) (8分) { ○中 原 和 郎
大 鶴 上 文 三 郎
Vitamin L₁ と p-aminobenzoic acid
30. コルトロンによる臨床治験成績 (第二報) (12分) 武 見 太 郎
31. 海藻類の B₂-complex に關する研究 (第一報) (12分) 大 嶽 六 郎
32. 除虫菊花燃焼によりて生ずる殺虫成分の研究 (第七報) (12分) 長 瀬 誠
検出成分を基礎とせる殺虫剤の合成 (其の二)
ベンチル-, フェニール-, ナフチルエーテル類に就いて
33. 除虫菊花燃焼によりて生ずる殺虫成分の研究 (第八報) (12分) 長 瀬 誠
検出成分を基礎とせる殺虫剤の合成 (其の三)
アセトフェノン類似物質の殺虫力並びに對照するエーテル類との比較

第一會場 (晩の部) 午後六時開始

34. 合成繊維の合成研究 (第九報) (12分) { 星 野 敏 雄
岩 倉 島 義 男
石 川 政 次 郎
35. 合成繊維の合成研究 (第十報) (12分) { 星 野 敏 雄
西 倉 村 義 四 郎
36. 醤油の比重 (5分) 淺 田 隆 次 郎
37. アルキル錫硫黄化合物に就て (12分) 原 田 多 市
38. N¹-(4-Amino)-phenylsulfanilamide の合成 (5分) { ○小 山 三 悦
小 南 里 五 百 代
39. N¹-Benzylsulfanilamide, N¹-Benzylsulfanilamide 及び N¹-Benzyl-N¹-pyridylsulfanilamide の合成に關する實驗 (8分) { ○小 山 三 悦
小 南 里 五 百 代
40. N¹-Acetylmetanilamide の合成 (5分) { ○小 山 三 悦
小 南 里 五 百 代

41. N¹-(4-Rhodan)-phenylsulfanilamide 及び N¹-(6-Rhodan)-benzthiazolsulfanilamide の合成 (6分) { ○小 山 三 悦
小 南 里 五 百 代
42. アミノ酸の研究 (第二報) (8分) { ○小 竹 無 二
目 廣 瀨 武 善 雄
- 休 憩 (10分)
43. クロモン-, クロマン-誘導體の合成 (第二報) (12分) { ○三 井 生 雄
吉 永 秀 太 郎
鈴 木 道 夫
44. 2-フェニル-クマロン誘導體の研究 (第三報) (8分) 杉 山 登
45. 2-フェニル-クマロン誘導體の研究 (第四報) (8分) 杉 山 登
Tetraphenyl-p-Benzodifuran 誘導體の合成に就いて
46. Phenoxthin のニトロ化に就いて (8分) { 村 上 量 彦
島 内 文 雄
47. o-及 p-Nitrophenylschwefelchlorid の反應に就て (8分) 村 上 量 彦
48. アミンとアセチルアミノポリメチン環状アムモニウム鹽との作用 (續報) (7分) { 尾 形 輝 太 郎
友 井 鈴 子
49. N-アルキル-環状アミン-メチン-α-アルデヒド及びマロン酸の作用に就いて (7分) { ○尾 形 輝 太 郎
飛 鐘 錦 晴
50. 感光色素の生理及び病理作用 (其四) (0分) { ○波 多 野 輔 久
杉 川 本 上 秀 一
池 松 静 淳 香
51. オキシナフトキノンに就きて (10分) 黒 田 チ カ
52. 海膽の棘の色素に就きて (5分) { ○黒 田 チ カ
岩 倉 倉 濱
53. 烏頭屬アルカロイドに對する臭素の作用 (8分) { 眞 島 利 行
田 村 國 三 郎

第二會場 (午前の部) 午前九時開演

54. 建築材料の熱反射能に及ぼす表面吸濕の影響 (9分) { 木 下 正 雄
西 藤 正 一 郎
55. 強力超音波源たる水晶板の破壊防止に就いて (6分) { 木 下 正 雄
吉 岡 勝 哉
56. 熱常數が温度の一次函数である場合の平板, 圓筒, 球の熱傳導 (11分) { 木 下 正 雄
川 下 研 介
57. 金屬表面の油脂の薄膜に就いて (續報) (16分) { 木 下 正 雄
菅 河 義 文 夫
58. 細管を通る液體の流量に就いて (第二報) (11分) { ○野 口 孝 重
多 田 元 圭 一
高 木 圭 一
59. 空氣泡による液體攪拌に關する研究 (第一報) (9分) { 大 山 義 年
山 口 耕 四 郎



99. アルキルベンゼンの熱分解と酸化 (16分) 外村 シ ヅ
 100. 鎖式アルコール類の熱分解及び燃焼 (16分) 染野 藤 子
 (吸収スペクトルによる検討)
 101. 液体アムモニア中に於ける二硫化炭素の反応 (12分) {○芝彦 一敏
 1) アミン類 2) アルコール類 {井内 上 正通
 岡 山 春 樹
 102. 液体アムモニア中に於ける空気酸化に対するコバルト {○芝彦 一敏
 錯鹽の接觸作用 (8分) {井内 上 正通
 103. 液体アムモニア中に於けるニトロベンゼンの還元生成物 (8分) {○芝彦 一敏
 {井内 上 正通
 104. 液体アムモニア中に於けるエステル類の電解還元 (8分) {○芝彦 一敏
 {井内 上 正通

休 憩 (10分)

105. ボルトランドセメントの凝結硬化に及ぼす砂糖 山 根 茂
 の影響 (豫報) (8分) 阿部 志 郎
 106. アルミナゲルに関する研究 (第六報) (8分) 鈴 木 豊
 107. 特種粘土の利用に就いて (5分) 深 川 庫 造
 108. 復水管材の耐浸蝕性に就いて (第一報) (16分) {○深川 庫 造
 {神農 辰 生
 109. 脱亜鉛現象の研究 (第二報) (16分) 篠 澤 尙 文
 110. 電弧熔接用被覆電極棒の被覆剤に含まれたる硼砂の 篠 澤 尙 文
 動作に就て (24分)

第一会場 (午後の部) 午後一時開始

111. $CdCl_2$, $CdBr_2$, CdI_2 の巨視的分子 (Makromolekül) の水蒸気 山 口 成 人
 に依る腐蝕 (電子廻折法に依る) (16分)
 112. 電子廻折と吸湿性物質の結晶構造: ZnI_2 , $CaBr_2$ (16分) 山 口 成 人
 113. 電子廻折に依る結晶構成メカニズムの追跡 (續): $ZnCl_2$, 山 口 成 人
 $ZnBr_2$, $NiCl_2$ の水溶液からの晶出 (18分)
 114. 熔銑中の溶解氣體と其影響 (16分) 眞 殿 統 直
 115. Al で脱酸せる鋼中の AlN の認知 (12分) 徳 光 直
 116. クロムメッキの耐摩耗性 (12分) {○飯高 一 郎
 {篠原 忠 健利男
 {篠内 袋 田 正
 117. 鑄鐵組織の特異性 (12分) {○飯高 一 郎
 {鈴見 高 木 敬 治
 {鹽 邊 圭 介
 澤 正 治

休 憩 (10分)

118. 寫真乳劑並に現像液添加剤の研究 (第一報) (8分) 大 山 泰
 數種のメルカプト-ベンツイミダゾール誘導體の寫真的性質について

119. 寫真乳劑並に現像液添加剤の研究 (第二報) (12分) 大 山 泰
 有機寫真乳劑並に現像液添加剤の構造と作用について
 120. サーモカラーに就て (10分) 稻 葉 見 敬
 121. 沸騰せる液体を用ひる恒温槽に就て (5分) 飯 島 俊 一郎
 122. 酸化銀の解離平衡に関する知見 (8分) 飯 島 俊 一郎
 123. 臘の電氣的性質と分子構造 (13分) 柿 内 賢 信
 124. 結晶化學的研究 (第十五報) (16分) {○渡邊 得 之 助
 X線に依る熱膨脹係数の測定 (其三) {仁喜 田 多 達
 125. 結晶化學的研究 (第十六報) (16分) {○小 田 夜 勇
 KH_2PO_4 型結晶の複屈折 (其二) {仁 田
 126. 結晶化學的研究 (第十七報) (16分) {○關 集 三 男
 二三の分子性結晶の昇華熱に就て {仁 田

第一会場 (晩の部) 午後六時開始

127. 赤外線吸収スペクトルによる分子構造の研究 (第一報) (12分) 嶋 内 武 彦
 二三のハロゲンエタンの分子構造
 128. 双極子能率と量子共鳴 (14分) 東 健 一
 129. 氣體のラマン効果 (第一報) (14分) {○森野 米 三 格 郎
 四鹽化炭素のラマンスペクトル {渡水 嶋 三 一
 130. 氣體のラマン効果 (第二報) (12分) {○森野 米 三 格 郎
 ニクロルエタンのラマンスペクトル {渡水 嶋 三 一
 131. ネオヘキサン, 正ペンタン, 正ヘキサン及正ヘプタン 嶋 内 武 彦
 の分子構造 (14分) {水森 三 米 政
 {森野 野 米 三 格 郎
 {渡水 嶋 三 一
 132. ニクロルエタンの分子構造とエントロピー (14分) {○森野 野 米 三 格 郎
 {渡水 嶋 三 一
 133. 氣體の電子廻折 (豫報) (10分) 大 幸 甫 宏 朗
 134. 電解質の電離機構に就いて (續報) (10分) {○安 積 朔 朗
 {桑 朔 朗

休 憩 (10分)

135. 水銀鹽素電極の周期的現象 (14分) 岡 本 剛
 136. 重アムモニアと水素との接觸交換反應 (14分) {○岡本 剛
 {石川 三 義 郎
 {金子 三 義 郎
 137. 接觸反應に對する共存物質の効果 (14分) 堀 内 壽 郎
 138. 接觸水素添加反應に對するアミンの効果 (14分) {○堀内 壽 郎
 {菅半 澤 孝 徹
 {堀坂 内 元 壽 義 進
 {瀨 藤 一 郎



140. 膠質體系の流體學的性質に就いての實驗及考察 (14分) 玉 蟲 文 一

第二會場 (午前の部) 午前九時開演

141. 超解像乳劑 (R = 1200) に依る寫真レンズの分解能測定 (11分) { 日 置 隆 一
 ○大 村 富 彌
142. 微細目盛の研究 (11分) { 福 田 光 治
 ○大 村 富 彌
143. 反射面を有する寫真レンズの試作 (豫報) (7分) { 福 田 光 治
 ○日 酒 井 良 香
144. アナリスコープによる鐵中のクロームの分光分析 (10分) { 福 田 光 治
 ○日 置 隆 一
145. 熔融珪酸鹽に關する觀察 (7分) 白 井 俊 明
146. 無極放電に就いて (7分) 栗 野 保
147. 窒素の弧光スペクトル (NI) に就いて (第四報) (7分) { 神 山 雅 英
 ○野 口 雅 英
148. 極端紫外部に於ける反射 (續報) (5分) { 須 賀 太 郎
 ○神 伊 山 澤 彦 次 英 郎
149. シアナミド蒸氣の Schumann 領域吸収スペクトル (第一報) (16分) { 今 西 直 夫
 ○田 地 隆
150. H₂, D₂ のスペクトルの同位元素効果 (7分) { 藤 岡 由 夫
 ○金 松 田 正 恒 世 夫
 永 夫

休 憩 (10分)

151. 極端紫外部に於ける NO 分子の吸収帯スペクトルに就いて (14分) { 高 嶺 俊 夫
 ○田 中 原 善 麻 夫 雄 夫
 柳 夫
152. 珪素の極端紫外部スペクトル (SiII) に就いて (16分) { 高 嶺 俊 夫
 ○田 中 山 善 久 夫 雄 子
 中 山 夫
153. 水溶液に於けるタリウム錯イオンの螢光 (11分) 加 藤 颯 雄
154. CaO-Mn 燐光體の發輝と吸収 (11分) 内 田 洋 一
155. 酸化亜鉛並びに酸化カドミウムの帯スペクトル (7分) 神 服 誠 之 助
156. Ca の火焰スペクトルに現はれる連続帯 (11分) { 木 村 正 路
 ○神 服 誠 之 助

第二會場 (午後の部) 午後一時開始

157. 炭化水素と酸素との混合氣體のテスラースペクトルに就いて (16分) { 宮 西 通 可
 ○村 田 和 也
158. 觀測中の油滴の變化が電子荷電量の測定値に及ぼす影響に就いて (14分) { 石 田 義 雄
 ○末 次 井 豊 太 郎
 松 井 弘 郎 文

159. 稀薄氣體中に於ける直流放電の場合の陰粒子流の速度について (11分) 柏 木 好 三 郎

160. 電離層の電子數増加時率 $\frac{dn}{dt}$ に就いて (19分) 長 岡 半 太 郎
161. Inverter として Peaucellier Cell の利用 (7分) 長 岡 半 太 郎
162. Polflucht Kraft (退極力) の作用に依る海底ブロックの移動並に深溝の創成 (19分) 長 岡 半 太 郎
163. 火山は何故に大陸中心に分布されないかの物理的觀察 (19分) 長 岡 半 太 郎

休 憩 (10分)

164. 氣體の van der Waals 常數について (7分) 芝 龜 吉
165. 特定空間の必須性 (11分) 土 井 不 曇
166. 光速の微差吟味 (豫報) (16分) 土 井 不 曇
167. 波動場の方程式と第 5 次元—III (19分) 渡 邊 慧
168. 自然常數に就いて (9分) 渡 邊 慧
169. 負の質量に就いて (13分) 渡 邊 慧
170. 高い荷電及び高いスピンの陽子同重體の假定について (7分) 谷 川 安 孝
171. 中間子の自然崩壊に就いて (11分) 坂 田 昌 一

第二會場 (晩の部) 午後六時開始

172. 負勢力状態の陽子について (7分) 宮 島 龍 興
173. 陽子に依る擬スカラー中間子の創生 (11分) 荒 木 源 太 郎
174. 重粒子間の相互作用と重粒子の磁氣能率 (16分) { 小 林 稔 平 英
 ○山 崎 純 宗
175. 核子の異常磁氣能率に就いて (7分) { 湯 川 秀 樹 樹 夫 信
 ○上 野 世 野 寛
176. 宇宙線の大氣中に於ける強度曲線に就いて (11分) 玉 木 英 彦
177. 宇宙線と原子核力について (11分) 武 谷 三 男

休 憩 (10分)

178. 原子核のメソン對理論 (11分) 尾 崎 正 治
179. 核粒子の近傍の中間子の状態について (16分) 朝 永 振 一 郎
180. 宇宙線の比電離度測定 (10分) { 仁 科 芳 雄 文
 ○小 川 正
181. 直徑 60 cm の霧函の試作 (7分) { 仁 科 芳 雄 文
 ○竹 内 雄 文

182. 宇宙線に関する諸報告 (48分)
 (其一) 地下 1200 米に於ける宇宙線の性質
 (其二) 宇宙線と磁気嵐
 (其三) 宇宙線による氣象判断
 (其四) 廣範圍に亙る宇宙線爆發

雄尋 郎 慎 郎 雄 男 吉 吉
 芳 千 太 太 喜
 科 井 戸 尾 村 崎 田 野
 仁 石 岡 飯 島 宮 増 池 管
 ○(其四)
 ○(其三)
 ○(其二)
 ○(其一)

第三日 十二月十二日 (金曜日)

第二會場 (午前の部) 午前九時開演

183. クレソキシ酢酸法によるオルト及びパラクレソールの
 定量に就いて (16分)
 184. 粉末誘電体の特性に就いて (第二報) (9分)
 185. 可變空気蓄電器の安定度に就いて (7分)
 186. 衝撃電壓波形の實驗的決定法 (11分)
 187. 電弧電極の異常消耗現象の機構 (11分)
 188. 高周波に於ける高抵抗に就いて (7分)

秋 田 務
 赤 澤 武 雄 夫
 赤 島 平 宗 武 正 雄 次
 山 川 正 己 郎
 鳳 誠 三 郎
 一 條 文 二 郎
 中 熊 村 谷 欽 雄 孝

休 憩 (10分)

189. 超短波に於ける固体絶縁物の誘電体損失角の測定 (11分)
 190. 超高周波高電界に於ける各種絶縁物の變形破壊 (28分)
 (16 耗フィルム撮影)
 191. Al の純度の陽極特性に及ぼす影響 (13分)
 192. 色色な共鳴中性子の數種の元素による散亂及び吸収係數 (16分)
 193. Hg の中性子散亂と負勢力單位 (7分)
 194. F+p のガンマ線による電子對の發生 (第三報) (7分)
 195. F+p のガンマ線による電子對の發生 (第四報) (7分)

岡 崎 三 郎 直
 日 下 部 正 三 郎 巖
 岡 崎 塚 三 郎 巖
 宮 田 良 聰 夫
 木 村 一 純 一 治 郎
 木 村 一 治 郎
 篠 原 健 道 一 夫 郎 行
 嶋 湯 前 山 原 山 健 道 二 高 郎 行
 篠 原 健 道 一 夫 郎 行
 嶋 湯 前 山 原 山 健 道 二 高 郎 行

第二會場 (午後の部) 午後一時開始

196. α 乾板による核反應測定の可能性試験 (7分)

嵯 峨 根 達 吉
 山 本 信 雄

197. 陰陽電子放射性核について (7分)
 198. プロトン乾板について (11分)
 199. 二三の核反應に於いて生ずる中性子の角分布 (19分)
 200. 速中性子によるウランの核分裂 (續報) (14分)
 201. 放射性窒素を用いたる亜硝酸イオンの窒素交換反應 (16分)
 202. 放射性窒素を用いたる種種の窒素化合物の窒素交換反應 (9分)

嵯 峨 根 達 吉
 宮 本 科 澤 芳 雄 信
 田 島 英 三
 仁 科 芳 雄 三
 田 島 英 三
 仁 科 芳 雄 三
 木 井 科 村 芳 雄 二
 井 矢 村 正 爲 博 毅
 大 崎 矢 博 毅
 仁 科 芳 武 雄 夫
 飯 久 盛 保 弘 夫 雄 美
 中 久 盛 保 弘 夫 雄 美

休 憩 (10分)

203. 人工放射性窒素による細菌の窒素固定作用 (7分)
 204. 細菌の物質代謝に於ける放射性炭素の利用に就いて (16分)
 205. 人工放射性ナトリウムの血液に及ぼす作用 (其三) (7分)
 溶血現象に就いて
 206. 人工放射性磷の生物體に及ぼす影響 (第一報) (11分)
 健康家兔に對する侵襲點 (Angriffspunkt) の檢索
 207. 蠶卵に對する Be+D 線の作用 (第五報告) (16分)
 208. 蠶卵に對する Be+D 線の作用 (第六報告) (16分)

仁 科 芳 武 雄 夫 雄 美
 飯 久 盛 保 弘 夫 雄 美
 中 久 盛 保 弘 夫 雄 美
 遠 藤 庄 三
 仁 科 芳 信 雄 胤 子
 北 原 芳 太 文 雄 郎 人
 武 大 見 飼 芳 太 文 雄 郎 人
 中 木 泉 暮 正 德 太 一 旭
 村 津 地 屋 孝 一

第一會場 (午前の部) 午前九時開演

209. 纖維素に對するフォルムアルデヒドの結合機構 (12分)
 210. 高分子物質の乾燥固体中の結合溶媒に就いて (16分)
 211. 高分子物質の溶解性及粘度測定値に及ぼす結合溶媒の影響 (12分)
 212. 高分子物質フィルムの強伸度に及ぼす結合溶媒の影響 (8分)
 213. 高分子物質の吸湿度及水分含有量の測定に就いて (12分)
 214. 合成高分子化合物に關する擴散的研究 (第一報) (7分)
 ポリ酢酸ヴィニル及ポリメタアクリル酸メチルの擴散及
 粘度實驗

谷 口 政 勝
 谷 口 政 勝
 谷 口 政 勝
 櫻 田 一 郎 勝 夫
 谷 細 野 政 正 夫
 谷 口 政 勝
 櫻 田 一 郎 勝 夫
 谷 細 野 政 正 夫

講 演 一 覧

日	會 場	自午前九時	自休憩後	自午後一時	自休憩後	自午後六時	自休憩後
		至 休 憩	至 正 午	至 休 憩	至 午後五時	至 休 憩	至 午後九時
第 一 日 十二月十日	第一會場	(1)~(6)	(7)~(13)	(14)~(22)	(23)~(33)	(34)~(42)	(43)~(53)
	第二會場	(54)~(59)	(60)~(66)	(67)~(75)	(76)~(85)	(86)~(92)	(93)~(97)
第 二 日 十二月十一日	第一會場	(98)~(104)	(105)~(110)	(111)~(117)	(118)~(126)	(127)~(134)	(135)~(140)
	第二會場	(141)~(150)	(151)~(156)	(157)~(163)	(164)~(171)	(172)~(177)	(178)~(182)
第 三 日 十二月十二日	第二會場	(183)~(188)	(189)~(195)	(196)~(202)	(203)~(208)		
	第一會場	(209)~(215)	(216)~(221)	(222)~(232)	(233)~(241)		

一 は主として化学に関する講演， = は主として物理に関する講演。
 括弧内の数字は講演番號を示す。
 第一會場：第二號館四階講堂。 第二會場：構内第二十二號館。

215. ポリヴィニールアルコール系合成繊維の界面動電圧 (豫報) (10分) 吉田 一
- 休 憩 (10分)
216. 繊維素繊維の水湿潤状態に於ける弾性的性質に関する研究 (第三報) (16分) 根岸 道治
 木綿繊維の湿潤伸張による X 線干渉圖の變化と弾性伸度
217. 繊維素繊維の水湿潤状態に於ける弾性的性質に関する研究 (第四報) (14分) 根岸 道治
 ラミー繊維の湿潤伸度と繊維素重合度
218. カプロラクタムより合成したポリアמיד繊維の X 線圖的研究 (8分) 〇淵野桂 六
 (合成高分子化合物の X 線圖的研究 第七報) 目代田 一 港郎
219. アゼライン酸とヘキサメチレンジアミンより合成したポリアמיד繊維の X 線圖的研究 (12分) 〇淵野桂 六
 (合成高分子化合物の X 線圖的研究 第八報) 目代田 一 港郎
220. Polyvinylalcohol 系合成繊維の X 線圖的研究 (續報) (8分) 〇淵野桂 六
 (合成高分子化合物の X 線圖的研究 第九報) 田中田 正 也郎
221. 絲狀分子の化學反應の動力學 (20分) 櫻 田 一 郎

第一會場 (午後の部) 午後一時開始

222. イオン交換性合成樹脂に関する研究 (12分) 〇山田正五 郎
 小 田 真 平
223. 硝化反應に関する研究 (8分) 〇小方芳 郎
 小 田 真 平
224. 減摩油の合成に関する研究 (12分) 〇郭和夫 平
 小 田 真 平
225. β -ヴィニルナフタリンに関する研究 (12分) 〇由山良章 三
 小 田 真 平
226. 環状ケトンより ω -オキシカルボン酸の生成に就いて (8分) 〇戸倉仁一 郎
 小 田 真 平
227. ナイロン並に其類似化合物合成に関する研究 (第六報) (12分) 〇目代原正夫 港
 石神谷 正 雄平
 小 田 真 平
228. フリーデル・クラフツ反應に依るトルオールとエチレンジクロリドとの縮合に就いて (16分) 尖 戸 圭 一
 川 淳 光 二
 三 井 田 茂 次
229. ブタジエン及びアクリルニトリルの乳化共重合の研究 (12分) 〇古川淳 二
 三 井 田 茂 次
230. ブタジエン及不飽和ケトン共重合物の新加硫法に就いて (12分) 〇古川淳 二
 川 田 茂 次
231. 新ヴィニールケトンの合成 (8分) 〇古川淳 二
 川 田 茂 次
232. 二三の脂肪屬エーテルの接觸熱分解に依るヴィニール化合物の製造に就いて (豫報) (11分) 〇古川淳 二
 三 井 田 茂 次

休 憩 (10分)

233. ナトリウム重合に関する研究 (第四報) (10分) 増 尾 富 士 雄
234. デヴィニルアセチレンとエチニルブタジエンの分離及ヘキサトリエンの合成に就いて (3分) 〇塚本正 郎
 柴 沼 七 郎
235. ブチレン類の硫酸による共重合反應に就いて (11分) 〇新宮春 男
 清 水 田 信 丈之
 武 田 信 之
236. ガソリン合成の物理化學的研究 (第十一報) (12分) 〇兒玉信次 郎
 松多羅 彰 公 雄
 安 藤 公 長 男
237. ガソリン合成の物理化學的研究 (第十二報) (12分) 〇兒玉信次 郎
 松多羅 彰 公 雄
 安 藤 公 長 男
238. 一酸化炭素と水素とよりガソリン合成の研究 (第七十報) (16分) 〇喜多源 逸
 村 白 石 夫 博
239. 一酸化炭素及水素よりイソブタノール合成の研究 (第三報) 〇田原秀一 夫
 石見橋 俊 信 次 郎
 兒 玉 信 次 郎
240. 一酸化炭素及水素よりイソブタノール合成の研究 (第二報) 〇田原秀一 夫
 小見山 信 次 郎
 兒 玉 信 次 郎
241. 一酸化炭素及水素よりイソブタノール合成の研究 (第四報) 〇田原秀一 夫
 石見橋 俊 信 次 郎
 兒 玉 信 次 郎

閉 會 之 辭

所長 大河内 正 敏